

日本一のブランド米をめざして

つや姫だより



穂肥特別号

令和3年 7月 1日

庄内総合支庁農業技術普及課

# 茎数・葉色を確認し、 穂肥を遅れず適正に行おう。

## 1. 6月30日の生育調査結果と対応

平年に比べて、草丈は長く、茎数は並み、葉数の展開は早く進んでおり、葉色は淡いが指標並み。高品質で良食味のつや姫を生産するために、遅くとも穂肥適期（出穂30日前）までには中干しを完了させ、適期に穂肥をできる稲姿（茎数・葉色）にする。まだ土壌が柔らかい圃場では、再度作溝を行い、中干しを徹底する。

表1 作柄診断圃の生育調査結果（6月30日 鶴岡市上清水）

	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉数(枚)	葉色(SPAD)
本年	49.2	559	9.6	40.7
平年	43.4	563	9.3	42.4
平年比差	113	99	+0.3	-1.7
指標	45	540	9.3	40

注) 平年は過去5ヵ年平均、移植日は5月12日

## 2. 7月10日頃の生育診断と穂肥

つや姫は品質・食味最優先の玄米粗タンパク質含有率を高めない穂肥が重要である。生育量（茎数）と葉色を正しく把握し、それに合わせて穂肥の施用量と時期を判断する。（下表参照）

表2 7月10日（10葉期）の茎数・葉色と穂肥対応（株当たり本数は70株/坪の場合）

茎数・葉色（SPAD）	穂肥時期	穂肥窒素成分量
① 茎数 600 本/m <sup>2</sup> 以下で、葉色 39 以下 (28 本/株 以下)	出穂 30 日前	1.5kg/10a
② 茎数 600~650 本/m <sup>2</sup> 、または、葉色 39~41 (28~31 本/株)		1.0kg 以下/10a
③ 茎数 650 本/m <sup>2</sup> 以上、または、葉色 41 以上 (31 本/株 以上)	穂肥を行わない ※注	

※注：③の場合、出穂25日前まで待ち、確実に適正葉色まで低下した場合は、窒素成分 1.0kg/10a を上限に施用する。出穂前25日以降は穂肥を行わない。

つや姫の穂肥は、**出穂30日前に窒素成分で 1.5kg/10a** 行うこと（表・裏面図の①）が基本になる。

葉色が濃い圃場は、**中干しを十分に行った後、慎重に穂肥を行う。**

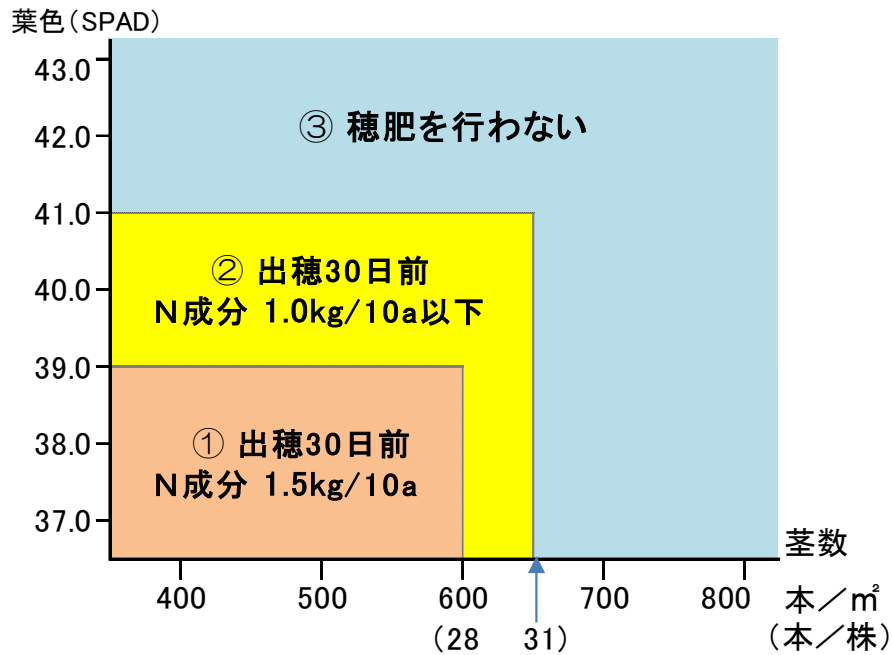


図 7/10 (10葉期) の穂肥対応 (株当たり本数は70株/坪の場合)

参考: 葉色板を使用する場合の換算値の目安  $\Rightarrow$  (SPADの値 + 10) / 10

**⚠ 出荷基準 : 「玄米粗タンパク質含有率が7.5%を超えると、つや姫として販売できない。」**  
**生育量に対して適正な穂肥の量と時期を厳守する。 ⚠**

### 3. ケイ酸資材の活用で丈夫なイネに！

「ケイ酸資材」は、中干し後（穂肥前）の使用が効果的である。受光態勢の改善、耐倒伏性向上、登熟促進等の効果が期待されるので、中干しをしっかりと行ったうえで施用する。

### 4. 中干し後～穂ばらみ期の水管理

中干し後は、走り水で足跡に水がたまる程度にした後、徐々に間断かん水（2日湛水、2～3日落水）にする。

出穂期前後から穂揃い期は、2～5cmの水深を保つ「花水」に切りかえる。

### 5. カメムシ対策は万全に！

発生密度を減らすため、周辺の草刈りを行い、斑点米カメムシ類の被害の軽減を図る。

**熱中症対策を忘れずに！ こまめに水分補給・休憩を！**